

記 者 会 見
7 . 1 . 1 0
資 料 1

秦野市長 令和 7 年 年頭所感

～「水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市（まち）」の実現に向けて～

全国各地で自然災害が多発した昨年、本市でも 8 月の台風に伴う大雨により市内各所で甚大な被害が発生しましたが、市民の日常生活が取り戻せるよう、復旧に向けた対応を速やかに行いました。

また、今なお、先が見通せない状況が続く、物価高への対応については、食材料費や、燃料価格などへの支援を行い、市民の暮らしと事業活動を守り、地域経済の活性化につながる対策を適時適切に実施してまいりました。

そのような中、表丹沢の魅力づくりの取組や、小田急線 4 駅周辺のにぎわい創造に向けた取組、妊娠・出産から子育て期まで切れ目ない支援の充実を図る取組など、“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクトを推進し、「総合計画はだの 2 0 3 0 プラン」を着実に進めることができたと考えております。

さて、来年度に向けた本市の財政状況を申し上げますと、まず、歳入面では、景気の回復などにより税収が上向いていることや定額減税の影響がなくなることから、市税全体では、前年度と比べて、増加することを見込んでいます。一方、歳出面では、少子・高齢化の進行や障害福祉サービスの増加などにより、社会保障費のさらなる増加を見込んでいます。

このような中、持続可能なまちづくりを進めていくためには、将来のまちの活力向上につながる投資効果の高い事業を実施していく必要があります。そのため、市の貯金である財政調整基金や市債については、後年度の財政運営に配慮しながらも積極的に活用し、予算を編成していくことが必要と考えています。

こうした状況を踏まえ、令和 7 年度の一般会計の予算規模は、前年度を上回り、過去最大の予算規模となる見通しです。

令和 8 年度には、現在、拡幅整備を行っている秦野駅北口の県道 7 0 5 号の供用開始、令和 9 年度には、新東名高速道路の全線開通と秦野丹沢サービスエリアの開設が予定されています。

新年度におきましては、これまで進めてきた「表丹沢の魅力づくり」と「小田急線 4 駅周辺のにぎわい創造」の取組を加速させるため、戸川地区の土地区

画整理事業、都市計画道路菩提横野線及び矢坪沢水路整備の三位一体の事業に取り組むとともに、秦野駅北口における多世代交流拠点の整備などの中心市街地活性化に向けた検討を進めていきます。そして、地域が元気になる仕組みとして、先月に運用を開始した電子地域通貨「OMOTANコイン」の利用をさらに広げ、地域経済の好循環と地域コミュニティの活性化につなげてまいります。

また、女性と子どもが住みやすいまちづくりを進めるため、保育所や小中学校の給食食材料の高騰分の支援を継続するほか、4月からは、本市2例目となる公私連携幼保連携型認定こども園として、「ペコちゃんこども園ほりかわ」が開園となるなど、子どもが健やかに育ち、学べる環境をさらに整えてまいります。さらに、若者世帯の本市への移住・定住を促進するため、現在実施している「はだの丹沢ライフ応援事業」では、ふるさととなる親世帯との同居や近居も助成金の加算要件とする制度の拡充を予定しています。

このような取組を一体的に進めることにより、ふるさと秦野の魅力や活力を向上させ、未来の世代にも選ばれる「全国屈指の森林観光都市」の実現を目指してまいります。

そして、秦野市は、1月1日に市制施行70周年を迎えました。「ふるさと秦野」への誇りと愛着をさらに深めるため、新年度には、記念式典のほか、二宮尊徳の教えやその思想を広めた安居院庄七などについて学ぶ機会となる「第30回全国報徳サミット」や、名水百選の所在する市町村が一堂に会する「全国名水サミット」、第6回秦野丹沢野外彫刻展、市民企画会議から提案のあった「市民参加によるモザイクアートの制作」など、各種記念事業を実施してまいります。

以上が現時点における令和7年度予算の編成状況ですが、詳細は、次回の記者会見で発表させていただきます。

また本年は、令和8年度から5年間の市政を推進する指針となる「総合計画はだの2030プラン後期基本計画」の策定作業を本格化する年です。特に、まち全体に活気をもたらし若者の声を丁寧に聴くなど、市民一人一人の声を生かしたまちづくりに全力で取り組み、都市像である「水とみどりに育まれ誰もが輝く暮らしよい都市（まち）」を目指してまいります。

ぜひ本年も、秦野市の魅力に磨きをかけていく姿を大いに取材していただきますようお願いし、年頭所感とさせていただきます。